

## 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学学長選考会議（第44回）議事要録

日 時 平成30年3月15日（木）10:40～12:05  
場 所 本部棟2階 中会議室  
出席者 平澤議長  
相澤委員，岩澤委員，加藤委員，久和委員，寺野委員，松澤委員，黒田委員，  
神田委員，東条委員，塚原委員  
陪席者 西関監事

議事に先立ち，第43回（平成29年11月16日開催）の議事要録（案）を確認した。

### 議 事

議長から，次期学長の選考方法について説明があり，意見交換を行った。

#### 1. 次期学長の選考方法について

##### （1）選考方法全体について

次期学長選考の推薦公示の詳細は，平成31年3月頃までの決定を目指して，今後実質2回の学長選考会議において議論を進めていきたい。

##### （2）学長の機能について

大学の経営と教育研究の両面の機能をいかに強化するかについて，例えば，アメリカの大学に見られるように，学長が経営，Provost が教育研究といったように機能を分掌することの可能性を含め議論を行った。思い切った改革を行うには学長と Provost が責務を分掌し，各方面に専念する方が良いという意見に対し，日本ではまだそのような機能分掌が根付いていないことや適任者の探索は難しいという意見もあった。今後も議論を継続していく。

##### （3）学長候補者の人数について

現在の学長選考規則では，「学長選考会議」で候補者を6名以内に絞ることができ，その名簿を意向投票にかけることになっている。票の分散を考えると，候補者数は多くないほうが良いという意見が多いが，人数を絞る場合，学内意向調査前に学長選考会議で候補者をどのような知見に基づいて絞るかという議論が必要になる。従来どおり6名以内とすることも含め，今後検討を継続する。

##### （4）学長候補者によるプレゼンの方式

候補者の所信は，文書による資料とプレゼンテーションとが想定されている。学長選考会議におけるプレゼンテーションと意向投票のためのプレゼンテーションの両方が有りうる。両者を同時に行うことによって，学内の教職員と学長選考会議が情報を共有することができ，意向投票の結果と学長選考会議の決定との乖離を少なくできると考えられるが，各プレゼンテーションの趣旨が異なることから，別々に行うべきであるとの意見もあった。今後検討を継続する。

以上